脱施設化ガイドライン案への世界のコメント（2022年6月）　No.6

提出書類

緊急事態対応を含む脱施設化に関するガイドライン案に関する意見書

（国連障害者権利委員会宛て）

提出者

「自閉スペクトラム障害」と診断された人（第2報）

サポート

スロベニア共和国社会保護研究所

Validity財団　ー精神障害者人権擁護センター

2022年6月30日

　私は自閉症スペクトラムと診断された者です。

　障害のある人が地域や家族のなかにいられるようにしている国を支援するこのガイドラインがあるのは良いことだと思います。ガイドラインのETR版は非常にわかりやすいです。（訳注　ガイドライン案が出された際、イージーリード版も出された。おそらくそのことかと思われる）写真が良く、内容をよく表しています。

　法律は絶対に変えるべきです。多くの資金が施設に流れています。そして、そのお金はどこに行ったのかと問いたいです。施設で働く人たちの給料になっているのでしょうか。自分たちの運営お金を集めなければならないアルペン協会（訳注： スロベニアのボランティア的な登山協会）やインクルーシブなハイキング活動にもっと資金を回すべきでしょう。

　セノジェーチェ（訳注　スロベニアのリトラル地方にある集落）の障害のある人のグループホーム「New Paradox」のように、施設にいる人たちが地域に出て行くことを支援する法律が必要です。

このような施設にお金を渡すよりも、自閉症の青少年を支援する組織のアスピのような団体にお金を渡した方がいいのです。あるいは、"Bodi zdrav" (健康でいよう)のような団体に。あるいは、スイミングプールにお金を使うのもいいでしょう。施設に使うお金はもう十分あります。

　施設にいるのが嫌なら地域に移るべきでしょう。施設で良いなら施設で暮らせばいい。でも、1〜2ヶ月地域で暮らしてみて、どちらがいいかどうか決めることもできます。

アスピのように、個人的なアプローチ、カウンセリング、会話グループが必要です。アスピは支援サービスです。

　障害のある人がそこで判断することは、間違いなく重要です。

　そして、自分を支えてくれる人を選べるのは良いことです。その人は家族の誰かということもあり得るし、お金を払って頼む人もあります。

女性や子ども

　私は、女性に対するより悪い待遇があるということは知りませんでしたが、書いてあるならおそらくそうなのでしょう。女性には選挙権がない時代もありましたが、今はあります。でも、まだまだ女性の方が差別されています。

　特別なニーズを持つ子どもが好きではない年配の人が、里親に預けることがあります。小さいうちは平気です。しかし、10歳になると苦痛になってきます。

　新しい家族ができるのはいいことで、少なくとも他の家族で幸せに暮らせるようになります。私は一人の女の子を知っていますが、その子は自分の家で家族と一緒に育っています。家族にとっては大変なことですが、彼らは彼女を愛しています。

権利

　障害のある人には、教育を受ける権利があります。誰もが尊重される権利を持っているわけではありません。教師は尊重されますが、生徒や子どもは尊重されません。

　誰もが選挙権を持つべきです。

地域生活について

　セノジェーチェには「New Paradox」という家が一軒あります。そこには、3人の障害のある人が住んでいます。犬の散歩をしていたので、何人かは知っています。キッチンは共同です。

施設と施設入所者の状況

　施設に住んでいるアナを知っています、メールもしています。彼女は週末だけ家族に会いに行けます。彼女の施設ではキッチンは共同です。

　その施設の人たちは本当に閉じ込められています。彼女は退屈なことが多いと言っています。外出できるのは夜の9時まで。それ以降になると警察を呼ばれることもあるそうです。どこに行くにも、仕事に行くとき以外は言わなければなりません。外出することは全くできません。出かけたら怒られるのです。

　アナは工場で働いています。仕事は好きではないが、慣れたと言っていました。

　母親と一緒に暮らすのが夢。

　時々、週末に実家に帰りますが、なぜいつもお母さんと暮らせないのかわかりません。

　家族から切り離されているのです。

　K通りには、そういう人たちのための施設もあります。いつもそこに住んでいる人もいます。しかし、学生であれば週末になると家に帰る人もいます。そこでどういう生活しているのかは知りません。

　リュブリャナ（訳注　スロベニアの首都）のポリエ地区の「精神科病院」についても聞いたことがあります。母や祖母は、そこでは障害のある人を網と檻のなかに閉じ込めていると言っていました。食べ物はほんの少ししか与えられない。刑務所の中よりもひどいと。私が悪さをすると、おじいちゃんは、お母さんが「精神病院 」に連れて行くぞと脅しました。あそこでは今でも電気ショックの治療が行われているのでしょうか？

　施設内には本当に何の権利もないのです。それを変える必要があります。すべてを許可する必要があるのです。ルームメイトを選べないとダメなんです。施設が決めるルームメイトだと、その人といろいろ衝突する可能性があるのです。

注：この投稿で示された見解は、インタビューされた一個人のものであり、必ずしも当事者が協議プロセスに参加することを可能にしたヴァリディティ財団（Validity）の意見を反映するものではありません。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（訳　2023年4月： 尾上裕亮、岡本 明、佐藤久夫）